

## 2020年1月NHK東北地方放送番組審議会

1月のNHK東北地方放送番組審議会は、16日(木)、NHK仙台拠点放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、きんよる秋田「検証イージス・アショア ～独自調査で探る 住民の“声”～」も含め、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、2月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長 藤村 ゆき ((株)健康米味楽農場 代表取締役)  
副委員長 坂田 裕一 (NPO法人いわてアートサポートセンター 理事長)  
委員 相原 和裕 (河北新報社 論説委員会委員長)  
桂木 宣均 (日本地下水開発(株) 代表取締役社長)  
佐藤勘三郎 (株式会社ホテル佐勘 代表取締役社長)  
佐藤 美嶺 (防災士)  
鷹山ひばり (七戸町立鷹山宇一記念美術館 館長)  
南條 和恵 (仙台大学柔道部女子監督)  
西内みなみ (桜の聖母短期大学 学長)  
八代 浩久 (東北電力株式会社 取締役 常務執行役員)

### (主な発言)

<きんよる秋田

「検証イージス・アショア ～独自調査で探る 住民の“声”～」

(総合 12月13日(金)放送) について>

- イージス・アショアの配備について、これまでの経緯がよくわかった。今回の番組のポイントは、独自調査をした点だと思う。住民を訪ねて対面でアンケートの協力依頼をしたのは、すばらしい対応だったと思う。単に送付したアンケートの回答では出てこない声を調査できたと思う。アンケートから、賛成派が手を挙げにくい状況だという話があった。マスコミの影響も大きいと思うが、手を挙げにくい状況を誰がつくっているのかも考える必要があると思う。秋田市にある陸上自衛隊新屋演習場やその南側にある勝平地区の位置関係がよくわかる地図が示されたので、電磁波による人体

への影響や配備されることによる危険度が理解しやすかった。政治学者や元防衛官僚などさまざまな立場の人の意見を取り上げていた。27分の番組に5人は多すぎたように思うが、番組に深みが出ていたと思う。

- イーリス・アショアの配備について、これまでの経緯や問題の所在がどこにあるのか、理解が深まる非常にいい番組だった。国は国防という大きな役割があり、一方で住民は自分たちの生活を守らなければならないので、複雑な関係になってしまう。そこをどう調整していくかが本質的な問題だと思う。今回の番組では、自治体の役割がどうなっているのかがわからなかった。自治体の役割がこの問題に対してどのようになっているのか、私たちももっと関心を持って見ていかなければならないと思った。国の丁寧な説明が欠けていたなどプロセスの問題を大きく取り上げていたと思うが、本質的な問題はどこにあるのか、もう少し深く検証してほしいと感じた。
- 住民に直接会ってアンケートをお願いし、住民の声をしっかり聞くという内容で、自分のこととして捉えられる内容になっていたと思う。元防衛官僚など、それぞれの立場の有識者が電磁波の影響など市民の疑問に答えていたのでとてもよかった。防衛省の東北防衛局の熊谷昌司局長は、ことばに詰まってしまう場面もあった。それをありのままカットせず放送したことはとても意味のあることだと感じた。イーリス・アショアの配備の問題に対して、国民に十分説明がされていないと感じている人は多いと思う。この番組はその意味で非常に価値があったと思う。難しい問題を非常にわかりやすく伝えてくれたと思う。
- 独自調査で探るというタイトルだったので、どんな住民の声が聞こえるのかと期待して見た。もっと長い時間をとって、108人の住民から回答されたアンケートの意見をもっと細かく知りたいと思った。アンケートの意見で、国を守ることにに対しては何の不満もない、賛成と言えば世間体が悪いなど、これまであまり聞かれなかった声が出ていたことは非常に意味のあることだったと思う。アンケートはどうしても回答者の年齢層が高くなりがちだが、投票権を持つ18歳以上の若い世代へのアンケートも意味のあることではないか。若い人たちが自分の国をどのように守っていくのか考えることは、これから先大事なことだと思う。
- 番組放送の数日前に、新屋演習場のイーリス・アショア配備見送りについてのニュースが入るなど、情勢が揺れ動いている中で、緊張感を持って迅速に対応した内容だったと思う。東北防衛局の熊谷局長に、記者が鋭い質問をして、私たちが知りたいことを引き出そうとした点は立派だったと思う。また、一軒一軒訪問して、調査の趣旨を説明し住民の意見を取りまとめた努力はすばらしいと思った。住民の本当の気持

ちを探る試みはいい着眼点だったと思う。反対一色の空気がある中で、賛成の意見を持つ人を見つけて異論を述べてもらうという構成に好感を持った。ただ、昨年5月に防衛省がイージス・アショア配備地として新屋演習場が適地であるとした報告書に数値の誤りがあった問題について触れてもよかったと思った。

- 番組の放送日が視聴者の関心が高まったタイミングだったのでタイムリーな話題提供でよかったと思う。アンケート調査の回答人数は108人と紹介されたが、何人に依頼したのか、賛成、反対などの内訳の数字をグラフなどで出してもらえるとさらによかったと思う。多くの専門家の意見も紹介されていて勉強になった。配備が必要だという意見の方と慎重な姿勢を示す方の両方の意見が紹介されていてよかった。この番組を見て、近隣住民の不安が完全に払拭されていないことや実物がまだない中での検証であったこともわかり、改めて考える必要があると感じた。番組でさまざまな視点を提示してもらえると、世の中全体で考えなければならない課題について、自分が考えるいいきっかけになると思う。
- イージス・アショアの配備の課題について、よく分かる教科書のような番組で勉強になった。さまざまな論点で描かれていたので、これまではっきり分からなかったことが明確になり参考になった。新屋演習場に配備された場合、攻撃の対象になるのではないか、人口が流出するのではないか、土地の価格が下がるのではないかという近隣住民の不安が実感として伝わってくる内容だった。国防のために、犠牲を払って配備したときに、私たちの暮らしにとって本当に必要なのかどうか突きつけられる番組だった。将来に禍根を残さないような選択をしなければならないということを改めて痛感させられた。
- イージス・アショアの配備問題は、候補地にならないとなかなか実感できない部分ではあるが、課題に向き合うというスタンスで作られた番組でとてもよかったと思う。国を守る、国民を守るということと、住民が自分の生活を守ることの間に起きる矛盾について、私たち一人一人が真剣に考えなければならないと思った。元防衛官僚の柳澤協二さんが「国は地元で覚悟を持った説明が必要である」と話していたが、そのとおりだと思った。もし自分の家の近くに防衛拠点が作られようとした時、私たち自身も覚悟を持ってこの問題と向き合う必要があると改めて考えさせられた。
- 非常にいい番組だったと思うが、なぜ108人の住民の本音を聞いて番組にしたのか動機をもう少し説明してもよかったのではないかと考えた。住民から得たアンケートに書かれていることばは、一般市民の目線で捉えられていたと思う。報道機関は、国がやろうとしていることと個人の幸福の追求という視点の中で、問題を明らかにして

いくことが使命だと思う。市民一人一人の思いをきちんと捉えて伝えていくことは重要だ。この番組は、その報道機関の役割としてとてもよかったと思う。

- 住民の声をしっかりと伝えるために独自取材をしたことはとてもよかったと思う。番組で紹介され注目されることで、自分のこととして考える人が増えてほしいと思った。ただ、アンケートの結果や意見は想定内で、調査をしなくても、これまでの報道でもわかることが多かった。住民の本音をどこまで引き出せたかに対しては疑問だ。東北防衛局の熊谷局長へのインタビューは、たくさん質問を投げかけていて高く評価したいが、住宅地への影響については、その返答にますます不安が強まった。曖昧な国の返答や矛盾点をもっと強く伝えてほしかった。イージス・アショアの配備計画と向き合うためには、勝平地区だけではなく、秋田県内、隣県、国レベルの大きな問題であることをもっと発信してほしいと思った。同じ立場の山口県と協力した番組づくりにも期待したい。

(NHK側)

この番組は出発点だと思っている。多くの方に視聴いただけたようで、秋田の方々の関心の高さを示していると同時に責任も大きいと感じている。頂いた意見をしっかりと受け止めて今後の番組制作にいかしていきたいと考えている。

(NHK側)

記者が取材する中で、賛成・反対、いろいろな意見があるが、反対派の意見が目立ってしまうこともあり、住民の真意がどこにあるかをきちんと調べて報告することが必要だと考えた。また、秋田県全体や隣の青森県では、この問題にあまり興味関心がないことがわかったので、この問題をもう一度整理して伝える必要があると思った。アンケートは、勝平地区全世帯にお願いすることも考えたが、時間の制約などもあり、記者やディレクターが住民一人一人と直接向き合って意見を伺う形になった。サンプル数が108という規模だと、どのような傾向があるかをグラフで出すことは適切でないため、おもだった意見をできるだけ紹介した。今回得た108の意見は大きな財産なので、今後の取材にも生かしていきたい。

<放送番組一般について>

- 1月10日(金)のきんよる秋田「あきた鉄道出会い旅 ～奥羽本線“北側”編～」は毎回楽しみにしている番組だ。地元の人でも知らない無人駅が多く、旅がどうなるのかと心配したが、とてもおもしろかった。大館市にある温泉宿は、6年前に一度廃業したが、地元の方の強い思いで復活するまでの過程を写真などで紹介して、魅力的な温泉に生まれ変わる様子が伝わってきた。500円で大盛り定食を出す食堂の話もよかった。店主の工藤秀子さんが、息子2人を若くして亡くし、そこから大盛りの定食を出すようになったという話は感動した。秋田県は鉄道の路線が少ないので、今後続けていけるのか心配だ。いい番組だと思うので今後も期待している。

(NHK側)

今回で7回目になる「あきた鉄道出会い旅」だが、毎回、多くの方に見てもらえるコンテンツになっている。秋田県は鉄道の路線が少ないので、奥羽本線を北側と南側に分けて取り上げるなど工夫してやっていこうと考えている。この番組は事前の取材やアポイントはずらずに行っているため、毎回思いもよらない展開になる。再び同じ路線を取り上げても新しい出会いや違う話題を紹介できると思うので、できるかぎり続けていきたい。

- 1月10日(金)の「再発見いわて 真央が行く！岩手 車いすバスケットボール」を見た。浅田真央さんが盛岡の車いすバスケットボールチームを訪ね、車いすバスケットボールに挑戦していた。競技が違っても浅田さんのアスリートらしい真剣さが出ていたと思う。チームの大和田洋平キャプテンとの交流も印象に残った。大人になってから事故で車いすになった大和田さんが、周囲の温かい励ましの中でたくましく生きていることが伝わってきてとてもよかった。浅田さんと大和田さんが盛岡の古い街並みの中を地元の食べ物を一緒に食べながら歩く場面は、和やかで自然なぬくもりを感じさせてくれた。二人の飾らない雰囲気がとてもよく、やさしい気持ちになった。
- 12月31日(火)の「第70回NHK紅白歌合戦」を見た。毎年、家族で見てきたが、ことしは途中で見るのをやめてしまった。歌番組としての力がなくなってきたのか、演出の問題なのか、その両方が相まってつまらなく感じた。抜本的に見直す時期ではないかなと思った。
- 「第70回NHK紅白歌合戦」を見た。非常にきれいな映像とすばらしい技術だったと思うが、進行が慌ただしく、感動をかみしめる余裕がなかったことが残念だった。

た。前回は司会の内村光良さんが「L I F E」の要素を取り込んで盛り上げていたが、今回はその役割を生かしきれていなかったと感じた。映像の技術の進歩は伝わったが、進行が忙しすぎて印象が余り残っていない。ライブでゆっくりよい音楽を聞かせてほしいと思う。コンサートの会場から中継で出演する歌手もいたが、それは必要ないのではないかと思った。A Iの美空ひばりさんの登場も感動が薄かった。実物、生演奏にこだわり、原点に戻ってほしいと感じた。

- 12月28日(土)のNHKスペシャル「令和家族 幸せ探す人たち」(総合 後9:00~9:59)は、現代社会の家族の形を切り取った内容で見応えがあった。特に、関ジャニ∞の横山裕さんのエピソードが心に残った。幼い頃に両親が離婚し、祖父母のもとで育てられた経験のある横山さんが、里親家族を訪ねていた。そこで出会った16歳の少年が、自分を里親に託した父親と再会して良好な関係を築いている姿や自分を捨てた母親にも会いたいと言っていることを知って、横山さん自身の家族観が揺らいでいることが伝わってきた。「子どもにとって父親や母親は何人いてもいいし、完璧な人間が親になるとは限らない」という横山さんのことばが印象的で、何か気づき始めているように感じた。横山さんのこの先を知りたいと思ったところで次の話題に移ってしまったのでもの足りなさを感じた。
- 1月1日(水)のNHKスペシャル「10 years after 未来への分岐点」(総合 後9:00~10:15)を見た。興味深かったのは、バーチャル・ウォーターの話題。農産物や畜産物の生産にどれだけ水が必要だったか、仮想水として捉える考え方で、例えばコーヒー1杯のためには200リットルの水が必要だと言われている。日本人があまり思い至らないところを紹介していてとてもよかった。持続可能な開発目標SDGsも紹介していた。一般の人は、国や行政がやるべきことだと捉えていると思うが私たち一人一人がやっていくべきことだと思う。SDGsについては、今後もっと番組で取り上げてほしいと感じた。
- 1月11日(土)のNHKスペシャル「認知症の第一人者が認知症になった」を見た。みずから認知症であることを公表した認知症医療の第一人者の長谷川和夫さんにこの1年に密着した番組だった。長谷川さんの「余分なものは破棄とする」「心配になるけれども、その心配がわからない。これが認知症だと思う」ということばに圧倒された。かつて先輩医師に「君自身が認知症になって初めて君の研究は完成する」と言われたという話にも驚かされた。インタビューで「景色がどういうふうに見えますか」と聞かれ長谷川さんが「いや、景色なんて、前の景色と変わらなく同じだよ。認知症になっても、見える景色は変わらない」と話す場面にいろいろと考えさせられた。

- 1月7日(火)のクローズアップ現代+「“桜づつみ”と高校生～2020・被災地からの問いかけ～」を見た。5年前に創作された劇「桜づつみ」は、台風19号で決壊した長野県の千曲川の堤防の桜並木を表題に、地域で繰り返す水害の歴史を描いたもので、当時6年生で現在高校生になった生徒たちのより所になっている。人間関係が希薄になっていると言われる現代でも、この地区の高校生たちは強い結びつきがあり、家に戻れず苦しい時期でも友だちと笑顔で過ごす彼女たちの姿が印象的だった。日本は災害列島と言われているので、人とのつながりや絆をなくしてはいけないと感じた。歌の作詞作曲は、当時の担任の先生だったが、どのような思いで作ったのか先生のインタビューをもっと聞きたかった。
- 12月22日(日)の小さな旅「山の歌 みちのく 神の絨毯(じゅうたん)～栗駒山～」を見た。最初から最後まですばらしい紅葉の景色を楽しませてもらった。ナレーションで「色彩の万華鏡」「黄金色に輝くブナの森」など、美しい映像に合ったことばで景色を表現しているのが印象的だった。ドローンからの映像もきれいだったが、加えて足元の小さな秋の景色を巧みに織り交ぜた内容が視聴者を引きつけていたと思う。栗駒山で先祖代々の宿を継ぐことを決めた三浦千空さんの場面では、生活という視点から見えてくる栗駒山の魅力を感じた。レスキュー隊に在籍していた経験がある瀬戸健さんの場面では、岩手・宮城内陸地震の経験から、自然は美しさや恵みだけではないことを思い出させてくれたと思う。山歩きのガイドの勉強をしている岩井美裕希さんの場面でも、行き詰まった気持ちを救ってくれる山の魅力を感じた。さまざまな角度から栗駒山の魅力を見ることができ、いつか山頂からの風景を見てみたいと思える番組だった。
- 12月30日(月)の「スペシャルドラマ ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」(総合 後9:00～10:13)を見た。夜の上海の街並みが非常にきれいに映像化されていて引き込まれた。8Kでも放送していたが、普通のテレビで見てもそのすばらしさが伝わる内容だった。映画カメラマンの北信康さんが撮影監督をしていたことも大きかったと思う。100年前の上海の街の様子、当時のインテリアを忠実に再現した美術や衣装もすばらしいと思った。物語も映画を見ているような味わいがあり、いろいろな空想をしながら楽しむことができた。
- 1月1日(水)のブラタモリ×鶴瓶の家族に乾杯 新春！沖縄スペシャル(総合 後7:20～8:48)を見た。同じ場所にそれぞれ行くが、全く切り口が違っていた。タモリさんはその土地の歴史的な意味を専門家から説明を聞いて地域を紹介していくスタンス。鶴瓶さんはそこで暮らす人とのふれあいを楽しむ。2人の様子が対照的で、とてもおもしろかった

- 1月1日(水)の 東京ミラクル第4集「老舗ワンダーランド 佐藤健・物々交換の旅」(総合 後 10:15~11:04)を見た。「東京ミラクル」はいつも見ている。今回は東京に3,356社あると言われていた創業100年を超える老舗企業にスポットライトを当てていた。300年桜もちだけで商売を続けている店では「飽きないで商いを続ける」、東京で最古の人形店では「勝たずとも負けるな」ということばが紹介されて印象に残った。長寿の秘訣を漢字一文字で書くアンケート企画があり、1位が「信」、2位が「誠」、「変」だった。「変」は意外だったが、老舗企業は絶えずイノベーションが必要だということが分かり興味深かった。
  
- 1月5日(日)の明日へ つなげよう「新浜に生きる～震災9年 命つなぐ“里浜”～」を見た。仙台市沿岸部の新浜地区は、東日本大震災の津波で大きな被害があったが、松林を中心に再生して多様な生命が戻ってきている様子が人々の営みとともに描かれていた。ドローンを使うなど、映像が非常にきれいで、絵画を見ているような気持ちになった。また、ナレーションが一切なく、登場する人のことばで構成されていて、自然の風の音や小鳥のさえずりなども入り、これまでにない雰囲気番組だったと思う。生きている実感を私たちに伝えるような構成になっていたと思う。震災からの復興をテーマにした番組は、復興に取り組む人間の視線から描かれることが多いが、今回は自然そのものが持っている再生力を取り上げていた。自然としっかり寄り添っていくことを原点にして考えることも大切だと考えさせられた。
  
- 1月10日(金)の「まるごとSTAR WARS～いよいよ完結スペシャル～」(総合 後 10:00~10:48)を見た。第一作の公開から42年たった今も世界中で愛される映画「スターウォーズ」について、これまでのストーリーを紹介していて、非常にわかりやすかった。映画に秘められた世界観が心の世界と通じ合っていることが伝わってきた。
  
- 1月11日(土)の「しろくまピース20歳～家族と歩んだ“いのち”の軌跡～」(総合 後 7:30~8:15)は、とても感動する番組だった。赤ちゃんのときのピースの姿がかわいくて、非常に癒やされた。人間のようにおなかを上向きにして寝ることやてんかんの発作を起こすなど初めて見た映像には驚いた。話せない動物を相手にする飼育員という仕事の過酷さを感じたが、ピースと飼育員の高市敦広さんの信頼関係を見て、やりがいのある仕事だということも伝わってきた。細かな記録を全て残してきた高市さんの努力が、将来の動物の命を守ることに繋がっているという話に感動した。



- 1月11日(土)のSONGS「Little Glee Monster アンコール」を見た。紅白歌合戦で歌うシーンが印象に残っていて、どのような人たちなのか気になっていたのも、絶妙なタイミングで放送されたと感じた。デビューから今までのさまざまな思いが伝わり、応援したい気持ちになった。暗いトーンで番組が進んでいたのもどのように展開するのかと思ったが、最後には笑顔が見られてよかったです。「仲が悪かったんです」と始まったので、歌っている姿だけではなく、全員が一緒に仲よく話している場面があってもよかったですのではないかと。
- 12月20日(金)のららら♪クラシック「指揮者のシゴト！」を見た。指揮者という仕事の厳しさやオーケストラの方々と向き合い本番のコンサートを迎えるまでの舞台裏がよくわかる内容だった。演奏曲から作者の意図をくみ取り、具体的なアプローチを決める楽曲分析。その考えを奏者たちに伝え対話をしながら作り込むリハーサル。聴衆へ届ける本番を迎えるまでに大変な工程があることがわかった。とてもいい番組だったので、クラシックに興味のない人にもぜひ見てほしいと思った。今後もこのような番組を期待している。
- 1月2日(木)に再放送されたBS1スペシャル「戦争花嫁たちのアメリカ」、BS1スペシャル「北朝鮮への“帰国事業”知られざる外交戦」、BS1スペシャル「隠された“戦争協力” 朝鮮戦争と日本人」を見た。年が明けてすぐに硬派な番組を朝から放送していた。正月休みで家にいる人が多い時期に再放送することで、見る人ができた人も多いと思う。意義のある編成だった。
- 1月11日(土)のスーパープレミアム「山本周五郎ドラマ さぶ だれだって一人じゃない！切なく泣ける友情物語」(BSプレミアム 後9:00~10:59)を見た。山本周五郎の代表作を令和の時代にドラマ化することに制作者側のメッセージを感じ取ることができた。江戸時代を感じさせる風景、街並み、建物、道具、衣装、俳優の所作がきちんとしていて、見ていて非常に気持ちのいい作品に仕上がっていたと思う。残念だったのは、冒頭の橋のシーンは、背景の建物が安っぽく見え、雨の降らせ方も雑だったように感じたので、もう少し気を配ってほしかった。また、物語のメッセージは現代にも通じていることを伝えるためだと思うが、冒頭と最後に現代の東京の映像を入れていたが、あまり必要性を感じなかった。
- 11月14日(木)の「ラジオ深夜便」を聞いた。「令和つれづれ草」というコーナーでゲストが元新聞記者の稲垣えみ子さんだった。インタビュアーの力量は、短い時間にどれだけ引き出せるかということだと思うが、村上里和アナウンサーは、余計な話題には一切触れず、テーマの銭湯の話だけを引き出してすばらしいと感じた。

ラジオ深夜便は、高齢の方が聞くことが多いと思うので、入浴法や銭湯の効能、人との触れ合いなどとても聞きやすい内容だったと思う。

- 総合テレビ夜10時以降の番組編成がとてもいいと思っている。例えば、月曜日は「逆転人生」「ストーリーズ」「ニュースきょう一日」「プロフェッショナル仕事の流儀」など、そのあとの再放送も含めて見応えがあると思う。夜8時台、9時台は忙しくて見られない人もいると思うので、10時以降に番組が再放送されると落ち着いて見られていいと感じている。

ただ「ストーリーズ」など片仮名の題名が多いが、どのような意図があるのか、日本語の題名ではいけないのかと感じている。

NHK仙台拠点放送局  
番組審議会事務局